

【氷柱会場】

毎年冬になると、秩父の険しい壁に囲まれた 3 つの川の渓谷は、息をのむような氷の景色へと変化
する。1 月上旬から 2 月下旬にかけて、三十槌、尾ノ内百景、あしがくぼの岩壁には、光輝く氷柱
の滝に引き寄せられ、10 万人を超える鑑賞客が訪れる。氷柱会場は日中ずっと開放されており、
夜も数時間のあいだ開場される。夜には色とりどりの光で氷柱がライトアップされる。

三十槌の氷景は自然に形成されるが、他の 2 つは、岩壁の表面をジグザグに曲がる数百メ
ートルに伸びたパイプとホースで作上げられる。尾根の高いところに大きな水槽があるのだが、重力と
吸い上げ作用により、ホースの多数の小さな穴を通して水が岩肌を流れ、幻想的な形に凍結する。

氷柱会場とその精巧な水引システムは、愛情を込めて「氷柱おじさん」として知られている地
元のボランティアによって維持されている。氷柱おじさんは、ロープ、アイゼン、アイスピックを使用して、
氷で覆われた崖を定期的によじ登り、ホースのねじれを直したり、新しいパイプラインを敷設したり、詰
まりを取り除いたりする。わずか数名の男性たちによって、年間を通して維持管理されているが、氷柱
の季節には、ひとつの場所を維持するために 30 人もの男性が必要である。

12 歳以下の子供は無料で入場できる。氷柱会場を訪れた人は、それぞれの会場で特別な
カードにスタンプを押してもらうことができる。スタンプが集まったカードを温泉などの地元のお店で見せ
ると、割引や特典がもらえる。

三十槌

三十槌の氷柱は、大滝近くの荒川河川敷の南側の崖に、約 50 メートルにわたり広がっている。高
いところから流れ落ちる水は、岩肌を流れる際に凍結し、水の縁に沿ってクリスタルカーテンを形づく
る。三十槌は毎晩ライトアップされるが、会場は土曜日、日曜日、祝日は遅くまで開いている。入場
料は 200 円。三十槌までは、西武秩父駅からバスで 40 分で行くことができる。有料駐車場も利
用可能である。

尾ノ内百景

尾ノ内百景の氷景は、小鹿野町近くの尾之内渓谷にある長さ 250 メートル、高さ 60 メートルの
氷の壁である。尾ノ内沢に高くそびえる尾ノ内渓谷を横断している吊り橋から、氷の壁の素晴らしい
景色を眺めることができる。毎年冬の 5 日間は、色とりどりの光でライトアップされる。温かい料理を
販売する屋台が設営され、入場料の 200 円には、甘くてアルコール度の低い米酒である甘酒が一
杯無料で付いてくる。無料駐車場が利用可能である。また、西武秩父駅からバスが出ており、尾ノ
内渓谷入口バス停まで約 70 分で、そこから尾ノ内百景までは徒歩 20 分である。

あしがくぼ

2014 年に造られたあしがくぼの氷景は、秩父の氷柱名所の中で最も新しいものである。横瀬町に
あり、氷ノ沢によって形成された狭い峡谷にある。氷の柱に挟まれた小道は、鳥居の下をくぐって峡谷

へと通じている。そこでは、斜面の木々や岩が、氷によって風変わりて息をのむような形へと変化している。その外観は、幅 200 メートル、高さ 30 メートルの壮観を呈し、西武鉄道が運営する豪華観光列車ラビューは、ここを通過する際、乗客が氷景を眺めることができるように速度を落として走行している。この景色は、金曜日から日曜日の夜まで大胆な色でライトアップされる。休日も同様である。

あしがくぼの入場料は 300 円で、これには無料の甘酒 1 杯または紅茶 1 杯がついてくる。これは、横瀬で育った茶葉から作られた紅茶で、地元のボランティアにより提供されている。駐車場はスペースが限られており、会場までの道路が非常に混雑する可能性があるため、訪れる際には電車で来場することを強くおすすめする。氷景は、芦ヶ久保駅から徒歩わずか 12 分のところにある。車で行く必要がある人は、氷景から徒歩 10 分のところにある道の駅果樹公園に駐車することができる。